

阿蘇グリーンストックによる農家民泊（ファームステイ）・農業体験型修学旅行の実施内容

財団法人阿蘇グリーンストックでは、農家民泊・農業体験型修学旅行の受け入れを平成 11 年より実施している。以下、その実施内容等である。

（１）趣 旨

都市と農村の交流による新しい形の地域振興として位置づけ、取り組みを進めている。参加いただいているのは体験型修学旅行の中学生・高校生が主であるが、次代を担うこの子供たちに、厳しい自然と向かい合い農作物を育てる（生命を育む）苦勞を体験してもらったり、食や環境などに農家・農村が果たしている役割を学んでもらったりすることを狙いとしている。

（２）主な取り組み内容

農家民泊と農業体験の２つの取り組みを進めている。

農家民泊は、

- ・ 夕方より受け入れ、軽作業をともにし、お風呂や食事を通して団らん交流を進めている。
- ・ 朝も食事をともにし、送り出すという形をとっている。
- ・ このことを進めるために、旅行会社や学校への下見案内、事前の子供と受け入れ農家とのつなぎ、事後のフォローなどを財団で進めている。

農業体験は、

- ・ 午前コースと午後コースがあり、それぞれ２時間程度の体験をしていただく
- ・ １グループ 20～40 人程度の受け入れを行い、森づくり体験・輪地切り体験、竹炭づくり体験、田植え・稲刈り体験、漬け物づくり体験、畜産・酪農体験など多くの体験をしていただく。

（３）農家民泊（ファームステイ）の受け入れ態勢、実績

受け入れ農家数：阿蘇町 170 軒、久木野村 35～36 軒、西原村 30 軒

受け入れ対象：関西の中学校が主

受け入れ実績：平成 11 年 1 校 200 名

平成 13 年 10 校 1,400 名

平成 14 年 7 校 1,220 名

平成 15 年 12 校 2,300 名

平成 16 年（予約）2,100 名

平成 17 年（予約）5,000 名

農家 1 戸当たりの生徒受け入れ人数：3～4 人

農家へのお礼：5,000円 / 1名

その他：受け入れ農家には「過度なもてなしはしないこと」などの通知をしている。夕食はあか牛バーベキューやその他の料理をお願いしている。

(4) 取り組みの成果

「学校では見せたことのないような笑顔を、子供たちが見せていた」「自然のすばらしさ、星のきれいさ、水のおいしさ...どれもすばらしかった」「おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に食べたご飯がとてもおいしかった」など、先生や子供たちから好評を得ている。

このため、学校からの問い合わせ、仮予約、申し込みが増加している。

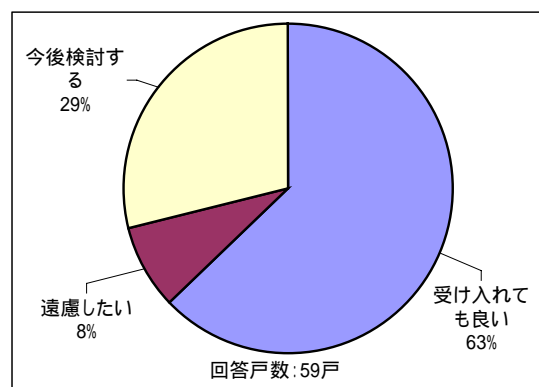
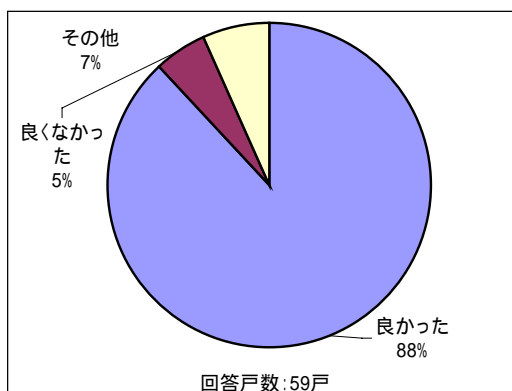
受け入れ側も、先進地の視察研修や反省会などを積極的に行ってきており、一つの大きな流れになってきている。

平成13年実施アンケート調査結果より

ファームステイ受け入れ農家アンケート

ファームステイを受け入れてよかったですか。

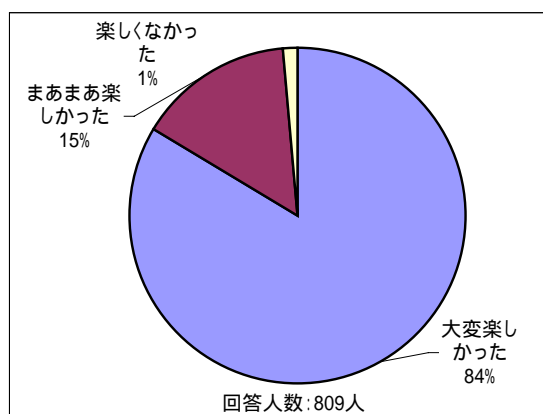
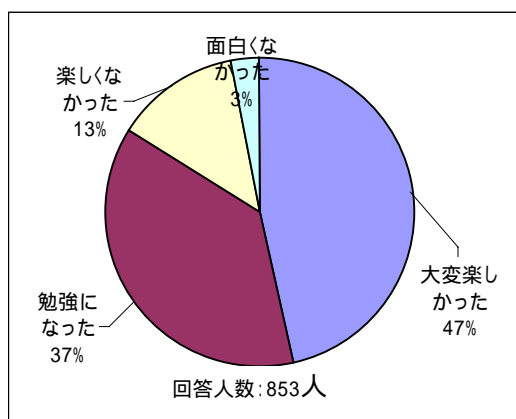
今後もファームステイを受け入れていいとお考えですか。



ファームステイ生徒へのアンケート

ファームステイは楽しかったですか。

農業体験は楽しかったですか。



出典：平成14年度熊本大学地域貢献特別支援事業報告書より